

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300202		
法人名	社会福祉法人相清福祉会		
事業所名	グループホーム陶ヶ岳		
所在地	山口県山口市鑄銭司12361-38		
自己評価作成日	令和5年10月30日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム陶ヶ岳の指針として、『ゆったりとした時間の流れの中で、温かい家庭的な雰囲気大切に、ひとりひとりが居心地が良いと感じられる空間』になるように努めています。家族・地域とのつながりを大切に、笑顔のある生き生きとした生活が送れるように、日々の関りを大切に、安心して生活ができるように努めています。家族と話し合いを行いながら、できるだけ長く陶ヶ岳で過ごしてもらるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特徴的な取り組みとして「馴染みの人や場との関係継続の支援」がある。訪問しやすい事業所・地域との絆を重視し、現在は感染対策を施した上で時間制限もなく居居での面会が可能となっており、事業所から発信をして面会の機会を徐々に拡大したいと考えている。又利用者から故郷の話聞いて職員も行かせてあげたいと思い、萩の実家に同行して娘と5年振りの再会を果たせた。利用者から「旅行に連れてくれてありがとう」と普段の利用者とは異なる一面に会い、職員も共感できた等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に個別外出支援もしている。指針(理念)の中心である「温かい家庭的な雰囲気」作りに向けた方策(怒ったり泣いたり笑ったりを自然に・思いやって行動する)を実践している。看取りについても事業所を通過点ではなく終の棲家としたい思いがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (ひだまり)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の指針を事業所の目につくところに貼って掲げている。日頃から理念を頭に入れて、日々の介護を考えている。	開設時に策定した指針(理念)とその中心である「温かい家庭的な雰囲気」作りに向けた方策(美味しい食事・自然な感情表出・行動力)・生活像を掲示して職員への周知を図り、ケア実践上の道標としている。ケアが業務中心にならない様、当たり前の生活作りに向けてケアに取り組んでいる。	理念策定から15年を迎え理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。職員目標は年2回の個人面談で検証しているが、事業所理念についても具体的な達成度を定期的に検証できる仕組み作りを通して、評価の検証過程を「可視化」することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策として地域の行事等には参加しておらず、外部からのボランティア等も受け入れをしていないが、実習生の受け入れは行っている。	コロナ禍の緩和により、利用者は近隣公園内での散歩・花見ドライブ・受診・近隣のスーパーでの買い物や地域のふるさと祭りに参加している。家族の面会・地域住民の運営推進会議への参加等、双方向の交流共に地域の高校福祉科・看護科の実習生の受け入れ等、世代間の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては行っていないが、法人としてセミナー等寸劇や認知症カフェを行いながら伝える取り組みを行っている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の内容を職員にも目を通してもらえるようにしており、改善できる所は改善していくように努めている。	自己評価は管理者が職員に評価の意義を説明し、全職員が自己評価欄に記入したものを管理者・リーダーが集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し、外部評価結果に基づいた目標に対して事業所として達成すべく具体的な改善策に全職員で取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、現状報告や季節の行事等実践した内容を書面にて報告し、助言や意見を出してもらいながら、サービスの向上につなげている。	会議は隔月に開催し、今年5月からは利用者・家族代表(輪番制)・市介護保険課・民生委員との対面会議となっている。コロナ禍における事業所の活動報告・質疑応答がなされ、要望に応じ資料の近況写真をより鮮明にした。参加出来ない家族との情報共有を図るべく議事録を送付している。	事業所はコロナ禍でのより効果的な会議運営を重要課題としているが、今までの会議は多様な意見交換の場とはなっていない様である。今後は多様な地域住民の関与や外部評価結果等、第三者による事業所運営評価の活用等、意見交換を促進し会議を活活性化する取り組みを期待したい。

自己	外部	項目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と必要時には連絡をとっており、ケアサービスの問題点などがある時は協力を求めている。	運営推進会議には市担当課職員が参加し情報共有が図られており、会議の開催報告書は担当課に持参し顔の見える関係作りをしている。市担当課とは日頃から介護保険制度に関する相談・報告や行政主催の集団指導等、研修会での情報共有により、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体での研修では身体拘束について学ぶ場を設けており、職員も把握できるように努めている。日中玄関の鍵は開けており、自由に出入りできるようにしている。ベッド柵での拘束も行っておらず、身体拘束をしないケアを行っている。	毎月の身体拘束委員会や年2回の研修会等を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対し管理者は気づきを促している。日中は玄関を施錠せず、見守りに対応している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は勉強会でも取り入れており、周知徹底している。身体を観察も行い、見過ごすことのないように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でも取り入れ知識を習得していき、個々の必要性についても話し合い対応していけるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に十分に説明を行い、理解・納得の上で契約を行っている。		

自己	外部	項目（ひだまり）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員会を明示し、苦情処置の手続きを明確に定めている。普段の面会時に声かけを行い、意見・要望等を聞いている。	利用者の意見は日々の会話の中で把握し、家族とは面会時・運営推進会議・様々な連絡手段で管理者や職員が積極的に聴く様に努めており、連絡ノート等に残し職員間で共有している。夫婦で入居した利用者につき、その後隣接施設に移った夫の葬儀に家族の要望で妻が参列した例がある。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案があれば、話を聞く機会を設けて、検討し反映させるように努めている。	毎月の職員会議、各種委員会、カンファレンス、毎日の申し送りや年2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。職員の提案によりベッド上の介護で内出血や皮膚損傷を防止するためベッド柵に保護材を巻いた経緯がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせて職場環境を作り、やりがいを育てるように整備している。給与水準は、人事考課を活用し昇給に反映している。勤務状況を把握し、向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会に参加し、利用者に関りながら、考え方を身につけることができるように努めている。	事業所は年間計画に基づいた法人研修や毎月内部研修を実施したり、外部研修案内の中から各自の力量に応じた段階的な研修を提案している。外部研修後の報告書を回覧し、その参加者が伝達講習を行い職員と情報共有に努めている。新入職員にはOJT(職場内訓練)による支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者とのネットワーク作りや相互訪問等の活動を行い、良い面を見習い、サービス向上に取り組んでいる。部内研修を通じて他部署の職員と一緒に研修に参加している。新型コロナウイルスの対応が緩和され、法人内のグループホームと、職員利用者ともに交流を図っている。		

自己	外部	項目 (ひだまり)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前や入所時に利用者と面談を行い、要望や思いを聞いて、支援に活かせるように努めている。本人の要望を職員間で共有して本人の意向をできるだけ実現できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族と面談を行い、要望や思いを聞いて、支援に活かせるように考えている。普段の面会時や電話連絡にて近況の様子を伝えられるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者が現状どのようなサービスや支援を必要としているのか面談をおこない、その時に必要なサービスが提供できるように努めている。訪問歯科や訪問看護などのサービスをとりいれている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事は積極的に実施してもらい、残存機能保持に努めている。利用者が持つ能力が発揮できる場を設け、助け合い感謝を伝えている。食器洗い、食器拭きや洗濯物干し・洗濯物畳みなど、行えることは利用者に取り組んでもらっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の状態を適時報告を行い、本人の支援について家族と相談しながら、対応を行っている。できるだけ偏りのない支援を行えるように努めている。		

自己	外部	項目（ひだまり）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策のため、馴染みの人に会ったり場所に行くことはできなかったが、家族との面会を希望にそって行えるように支援している。また、会話を通して馴染みの人や場所を思い出してもらえるように言葉がけを行っている。	「訪問しやすい事業所・地域との絆」を重視し、現在は感染対策を施した上で居室での面会が可能となっている。又、電話・手紙のやり取りの他、地域のふるさと祭りへの参加・受診・萩の実家で娘との再会等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握して、座席の配置など配慮をおこなっている。また一人ひとり孤立しないように、声かけをおこない、レクリエーションなどを通して、皆が交流できる機会を設けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から要望があれば、相談や支援を行えるように努めている。現状はサービス利用終了からの家族からの相談はあまりみられていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員主体ではなく、利用者ができる事はやってもらい、怪我や事故にならないように協力して行っている。本人のペースにて生活出来るように見守り、声かけをしている。	利用者の生活歴等から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。又、活気の低下や食事の自力摂取が困難等、介入が必要な状況の背後にある利用者の想いを探り、状況に適合する対応策を本人本位に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族に本人の今までの生活歴をシートに記入してもらい、話を聞くことにより、馴染みの暮らし方での生活を反映できている。本人のペースで自由に生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目 (ひだまり)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については、本人ペースで過ごしてもらっているが、食事、おやつはみんなで摂取している。心身状態、有する能力については、関りの中で気づいたことがあれば、職員で情報共有できるように連絡ノートに記載して、皆が現状の状態を把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を月一回話し合っている。家族の意向や支援が必要な場合は、家族に相談して支援を協力して行っている。また福祉用具についても業者の担当者と一緒に本人に合った福祉用具を提供するようにしている。	本人・家族、関係職種の意見を反映した介護計画原案を担当者会議で検討し、家族同意を得て本案としている。計画作成担当者が毎月モニタリングをし、3か月を基本に計画を見直している。家に帰りたい利用者の思いと家族の思いの隔たりを家の近くで家族と会うことで段階的に対応した立案例がある。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や話し合いにより情報を共有している。また何かあった際は利用者の様子や気づいたことを連絡ノートに記載できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画を話し合っている。できるだけ利用者の要望に沿った支援ができるように努めている。家族が受診の同行希望があれば、一緒に通院が行えるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動美容室や移動スーパーに定期的に訪問してもらい、暮らしを楽しめるようにしている。地域とのつながりは希薄だが、利用者の友人や知人が来設された際には、話しをしてもらっている。また移動美容室にて定期的に散髪をおこなっている。		

自己	外部	項目（ひだまり）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携は図れている。本人の状態に合わせて報告相談し、必要に応じて通院介助を行えるように、その都度対応している。家族や本人の希望があればできるだけ馴染みのかかりつけ医を受診できるようにしている。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、内科では全ての利用者は協力医を主治医とし適宜受診をしている。歯科は必要時に往診を受け、他科受診は家族又は事業所が協力している。常勤看護師の配置や訪問看護から週1回の来訪もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に異変があった場合や怪我など、看護スタッフが状態確認し、処置や排便困難時の対応をおこなっている。また訪問看護が週一度訪問された際、利用者の状態を報告している。受診必要時はその都度対応している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族への説明、同意をもらいかかりつけ医に相談している。入院された際は地域連携室を通して利用者の状態を把握するようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に看取りの同意書に同意を頂き、本人・家族の意向に沿って方針を共有し、できる範囲内で支援をしている。	利用開始時に重度化対応に関する指針を説明し了承を得ている。重度化した際には関係者で話し合いを行い、母体系列施設等への移行も含め、できる範囲で適切な支援を行う考えである。ここ1年で1名を看取り、また看取り中の方もあり、事業所を通過点ではなく終の棲家としたい思いがある。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時、その都度、起きた内容を記録して対応策を話し合い、再発防止に努めている。また、委員会での報告を行い、改善策等話し合い、実践できるように努めている。	事故防止の実践力を高めるため、必要時に事故・ヒヤリハット報告書の作成・回覧、また法人の事故防止対策委員会での情報をもとに毎月の職員会議で検証して再発防止に努めている。職員は法人の事故防止関連研修や適宜看護師から初期対応等の指導を受けて実践力の習得に努めている。	

自己	外部	項目 (ひだまり)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定して避難経路を確認しながら訓練を行っている。災害時の対策について、研修等で学び、安全に避難が行えるように努めている。非常口の位置、災害発生時にすばやく動けるように定期的に訓練等を行っている。	夜間想定、利用者参加を含め、年2回の火災訓練と土砂災害を想定した年1回の防災訓練を実施している。災害時の備蓄は事業所に一定の非常食もあるが、法人による一括管理となっており、近隣系列施設・事業所の後方支援体制もある。有事に備えBCP(事業継続計画)を整備中である。	定期的な避難訓練は実践的に展開されているが、地域との協力体制が十分に構築されていない。運営推進会議で参加者から災害時の事業所の受け入れ体制の話も出たが、課題となっている。運営推進会議で情報交換等、地域住民との連携も踏まえ、協力体制の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴、共感し、本人に寄り添えるように努力している。本人の性格を把握して、関りの中で一人ひとりにあった声かけができるように工夫している。適切な声かけについて、その都度話し合い、反省・改善を行っていきけるように努めている。	研修で職員の幅広い知識習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも本人が納得できる対応に努め、不適切な対応にはその場で気づきを促すが職員間でも注意し合っている。又、介護記録で他利用者はイニシャル表記等、個人情報にも配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人に選択していただけるような声かけを心掛けておこなっている。またその都度本人の思いや希望を聞いて支援につなげられるように配慮している。自己決定が困難な利用者はこれまでの過ごし方や生活歴など考慮して職員で話し合いながら支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別レクリエーションや軽作業をできる範囲で取り組んでもらっている。居室やホールで本人ペースで過ごしてもらっている。外に散歩に行かれたり、外出希望がある際はできるだけ、要望に沿った支援が行えるように心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用して散髪をおこなっている。なるべく本人の要望をきいて、その人の好みにあったおしゃれができるように配慮している。衣類については家族に持ってきていただくことが多く馴染みの物を着用して頂いている。		

自己	外部	項目（ひだまり）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のおかずの盛り付けを一緒に行い、食後、食器拭きや食器洗いをできる範囲でおこなってもらっている。定期的に食事会を行い、一緒に調理している。	献立は系列施設の栄養士が考え、朝食は夜勤者の手作り、昼夕食の副食は施設の厨房から配食されている。月に2～3回、利用者と共に調理する食事会や父の日には男性利用者だけでウッドデッキで焼肉昼食、菜園野菜の活用等、楽しみとなる工夫もある。利用者は片付け等の手伝いをしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態や好みを把握して、水分を継続して摂取できる物を提供している。また、個々の食事摂取量を記録して、食事量や栄養状態の把握をおこなっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の対応を行っている。歯ブラシを使用し、自力でできる方は促し、困難な方には介助し実施している。必要に応じて歯科往診をして頂いている。毎食後本人にあわせて口腔ケアを行い状態を観察している。不足分は声かけ介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状態に合わせて本人に負担にならないように支援している。一人ひとりに応じた声かけを行ったり言動を観察して、トイレ誘導を行っている。排泄習慣を記録し、排泄状況の把握に努め、自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表で排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。尊厳やプライバシーに配慮してケアに関わり、排泄時の転倒防止のため居室にポータブルトイレやセンサーマットを設置したり、トイレに自由度が高い格子状の手すりを導入する等、状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが難しい利用者の水分摂取量、食事摂取量、運動量等確認し、それに応じた援助を行っている。水分摂取量は個別に飲み物を購入し、食事形態は消化しやすいよう食べやすく提供している。運動量は散歩(園内外)、腹圧マッサージ等行い取り組んでいる。場合によっては内服薬の検討も行っている。		

自己	外部	項目 (ひだまり)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	同性介助希望の利用者は希望にそった支援を行っている。その時の本人の様子や状態に合わせて声かけをしている。入浴できない日が続くこともあるが、なるべく入浴できるように職員で話し合いながら、支援に努めている。その日の体調等に応じて清拭をしたり、体の状態に合わせてリフト浴を使用している。	週2回の午前又は午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応している。入浴は据え置き式家庭浴槽と浴槽に移乗し易い入浴台を活用した個人浴だが、状態によってはスライド式のリフト浴の対応をしたり、又、季節も楽しめる様、冬至に柚子湯を提供することもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調を管理し、利用者にあった環境になるように努めている。週に一回シーツ交換を行い、季節に応じた寝具や室温調整等を行っている。本人に合わせて日中の臥床援助をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように日付・氏名の確認を職員2名でその都度行っている。服薬が困難な利用者については、粉碎で処方してもらい、トロミ使用したりして、飲みやすいように介助している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援やイベントを実施し、支援している。クリスマス会や秋祭りなどへの行事へ参加したり、食事会を定期的に行い、一緒に調理したりしている。日常生活の中で、利用者一人ひとりに役割を持って頂き、家事等のお手伝いをしてもらい、日々の張り合いや喜びが得られるように支援している。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。食事会で調理等の家事や元大工の利用者にワゴンの分解を依頼する等、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策の為、外出の機会は少ないが、ウッドデッキ等で日光浴はしている。季節に応じて近隣へドライブや花見に行ったり、周辺の散歩などの支援に努めている。ドライブ・散歩等で気分転換できるようにしている。	コロナ禍の緩和に応じ、利用者の希望により少人数で近隣散歩や家族の協力も得ながらの受診等で外出している。例年の外出行事は自粛中だが、お花見・近隣ドライブ等、普段は行けないような所で「非日常」を楽しむこともある。萩の実家で娘との再会を果たす等、個別外出支援もしている。	

自己	外部	項目 (ひだまり)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、施設側で管理しているが、必要な時に物品を購入し本人に提供している。買い物の機会があまりないが、必要な物は口頭で伝えてもらったりメモを書いてもらい購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会を通して家族とお話ができるようにしている。電話を取り次いだり携帯電話にて連絡可能な利用者には、家族からの電話を受けられるように対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて模様替えや、飾り付けを行ったり、雰囲気だけでも楽しんでもらえるように配慮している。関係性を考慮し、その時々に応じた居場所作りに努めている。	白を基調としたリビングの天井は高くウッドデッキからの採光もあり、明るく開放的な空間となっている。季節の花・菜園野菜や季節行事の飾り付け、利用者の壁掛け作品等で季節の移ろいが感じられる様配慮している。トイレの格子状手すりやスライド式のリフト浴等、環境も整備されている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を把握して、座席などの配置を検討している。また独りになれる時間がつくれるように配慮して、本人のペースを大切にしながら支援を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや思い出のある物を自室に置き大切にされている。他に自宅で使用されていたタンスやテーブルなど設置されて過ごされたり、家族の写真を飾られたりされている。配置場所を考慮し、動線を確保して転倒予防に努めている。	居室にはベッド・エアコンを設置し、テレビ・タンス等、使い慣れた物や家族写真・孫からの絵手紙等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。ベッド・床にセンサーマットを設置して転倒防止を図ったり、ベッドから居室扉までの導線確保のため家具の配置替えをする例もある。	

自己	外部	項目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように表札を立てて自分で行けるようにしている。また、居室の扉付近に表札を貼り、自分の居室が解るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (こもれび)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の指針を事業所の目につくところに貼って掲げている。日頃から理念を頭に入れて、日々の介護を考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス対策として地域の行事等には参加しておらず。外部からのボランティア等も受け入れをしていないが、実習生の受け入れは行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては行っていないが、法人としてセミナー等寸劇や認知症カフェを行いながら伝える取り組みを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の内容を職員にも目を通してもらえるようにしており、改善できる所は改善していくように努めている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、現状報告や季節の行事等実践した内容を書面にて報告し、助言や意見を出してもらいながら、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者と必要時には連絡をとっており、ケアサービスの問題点などがある時は協力を求めている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体での研修では身体拘束について学ぶ場を設けており、職員も把握できるように努めている。日中玄関の鍵は開けており、自由に出入りできるようにしている。ベッド柵での拘束も行っておらず、身体拘束をしないケアを行っている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は勉強会でも取り入れており、周知徹底している。身体を観察も行い、見過ごすことのないように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でも取り入れ知識を習得していき、個々の必要性についても話し合い対応していけるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に十分に説明を行い、理解・納得の上で契約を行っている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員会を明示し、苦情処置の手続きを明確に定めている。普段の面会時に声かけを行い、意見・要望等を聞いている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案があれば、話を聞く機会を設けて、検討し反映させるように努めている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせて職場環境を作り、やりがいを育てるように整備している。給与水準は、人事考課を活用し昇給に反映している。勤務状況を把握し、向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会に参加し、利用者に関りながら、考え方を身につけることができるように努めている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者とのネットワーク作りや相互訪問等の活動を行い、良い面を見習い、サービス向上に取り組んでいる。部内研修を通じて他部署の職員と一緒に研修に参加している。コロナウイルスの対応が緩和され、施設内のグループホームと、職員利用者ともに交流を図っている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前や入所時に利用者と面談を行い、要望や思いを聞いて、支援に活かせるように努めている。本人の要望を職員間で共有して本人の意向をできるだけ実現できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族と面談を行い、要望や思いを聞いて、支援に活かせるように考えている。普段の面会時や電話連絡にて近況の様子を伝えられるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者が現状どのようなサービスや支援を必要としているか面談をおこない、その時に必要なサービスが提供できるように努めている。訪問歯科や訪問看護などのサービスをとりいれている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事は積極的に実施してもらい、残存機能保持に努めている。利用者が持つ能力が発揮できる場を設け、助け合い感謝を伝えている。食器洗い、食器拭きや洗濯物干し・洗濯物畳みなど行えることは利用者に取り組んでもらっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の状態を適時報告を行い、本人の支援について家族と相談しながら、対応を行っている。できるだけ偏りのない支援を行えるように努めている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策のため、馴染みの人に会ったり場所に行くことはできなかったが、家族との面会を希望にそって行えるように支援している。家人や知人より連絡があった時は、電話で話ができるようにしている。また、会話を通して馴染みの人や場所を思い出してもらえるように言葉がけを行っている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握して、座席の配置など配慮をおこなっている。またひとりひとり孤立しないように、声かけをおこない、レクリエーションなどを通して、皆が交流できる機会を設けている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から要望があれば、相談や支援を行えるように努めている。現状はサービス利用終了からの家族からの相談はあまりみられていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員主体ではなく、利用者ができる事はやってもらい、怪我や事故にならないように協力して行っている。本人の楽しみ事や本人ペースの過ごし方を把握して、一人ひとりの思いにそった暮らしを実現できるように努めている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族に本人の今までの生活歴をシートに記入してもらい、話を聞くことにより、馴染みの暮らし方での生活を反映できている。本人のペースで自由に生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目（こもれば）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については、本人ペースで過ごしてもらっているが、食事、おやつはみんなで摂取している。心身状態、有する能力については、関りの中で気づいたことがあれば、職員で情報共有できるように連絡ノートに記載して、皆が現状の状態を把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を月一回話し合っている。家族の意向や支援が必要な場合は、家族に相談して支援を協力して行っている。また福祉用具についても業者の担当者と一緒に本人に適した福祉用具を提供するようにしている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や話し合いにより情報を共有している。また何かあった際は利用者の様子や気づいたことを連絡ノートに記載できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画を話し合っている。できるだけ利用者の要望に沿った支援ができるように努めている。家族が受診の同行希望があれば、一緒に通院行えるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動美容室や移動スーパーに定期的に訪問してもらい、暮らしを楽しめるようにしている。地域とのつながりは希薄だが、利用者の友人や知人が来設された際には、話しをしてもらっている。また移動美容室にて定期的に散髪をおこなっている。		

自己	外部	項目（こもれば）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携は図れている。本人の状態に合わせて報告相談し、必要に応じて通院介助を行えるように、その都度対応している。家族や本人の希望があればできるだけ馴染みのかかりつけ医を受診できるようにしている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に異変があった場合や怪我など、看護スタッフが状態確認し、処置や排便困難時の対応をおこなっている。また訪問看護が週一度訪問された際、利用者の状態を報告している。受診必要時はその都度対応している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族への説明、同意をもらいかかりつけ医に相談している。入院された際は地域連携室を通して利用者の状態を把握するようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に看取りの同意書に同意を頂き、本人・家族の意向に沿って方針を共有してできる範囲内で支援をしている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時、その都度、起きた内容を記録して対応策を話し合い、再発防止に努めている。また、委員会での報告を行い、改善策等話し合い、実践できるように努めている。		

自己	外部	項目 (こもれび)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定して避難経路を確認しながら訓練を行っている。災害時の対策について、研修等で学び、安全に避難が行えるように努めている。非常口の位置、災害発生時にすばやく動けるように定期的に訓練等を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴、共感し、本人に寄り添えるように努力している。本人の性格を把握して、関りの中で一人一人にあった声かけができるように工夫している。適切な声かけについて、その都度話し合い、反省・改善を行っていきけるように努めている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人に選択していただけるような声かけを心掛けておこなっている。またその都度本人の思いや希望を聞いて支援につなげられるように配慮している。自己決定が困難な利用者はこれまでの過ごし方や生活歴など考慮して職員で話し合いながら支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別レクリエーションや軽作業をできる範囲で取り組んでもらっている。居室やホールで本人ペースで過ごしてもらっている。外に散歩に行かれたり、外出希望がある際はできるだけ、要望に沿った支援が行えるように心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用して散髪をおこなっている。なるべく本人の要望をきいて、その人の好みにあったおしゃれができるように配慮している。衣類については家族に持ってきていただくことが多く馴染みの物を着用して頂いている。女性利用者は、要望によって化粧・マニキュア等楽しむことができるように支援している。		

自己	外部	項目（こもれば）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のおかずの盛り付けを一緒に行い、食後、食器拭きや食器洗いをできる範囲でおこなってもらっている。定期的に食事会を行ない、一緒に調理している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態や好みを把握して、水分を継続して摂取できる物を提供している。また、個々の食事摂取量を記録して、食事量や栄養状態の把握をおこなっている。嚥下状態が低下している利用者には、水分にトロミを使用して摂取してもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人にあわせて口腔ケアを行ない状態を観察している。歯ブラシを使用し、自力でできる方は促し、困難な方には介助し実施している。不足分は声かけ介助する。必要に応じて歯科往診をして頂いている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状態に合わせて本人に負担にならないように支援している。一人一人に応じた声かけを行ったり言動を観察して、トイレ誘導を行っている。排泄習慣を記録し、排泄状況の把握に努め、自立に向けた支援を行っている。状態が低下しても、できるだけトイレで排泄が行えるように努めている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが難しい利用者の水分摂取量、食事摂取量、運動量等確認し、それに応じた援助を行っている。水分摂取量は個別に飲み物を購入し、食事形態は消化しやすいよう食べやすく提供している。運動量は散歩(園内外)、腹圧マッサージ等行い取り組んでいる。場合によっては内服薬の検討も行っている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その時の本人の様子や状態に合わせて声かけを行うよう心がけ、気分よく入浴が楽しめるように努めている。入浴できない日が続くこともあるが、なるべく入浴できるように職員で話し合いながら、支援に努めている。その日の体調等に応じて清拭をしたり、体の状態に合わせてリフト浴を使用している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調を管理し、利用者に合った環境になるように努めている。週に一回シーツ交換を行い、季節に応じた寝具や室温調整等を行っている。本人に合わせて日中の臥床援助をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように日付・氏名の確認を職員2名でその都度行っている。服薬が困難な利用者については、粉碎で処方してもらい、トロミ使用したりして、飲みやすいように介助している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設行事への参加や食事会で一緒に調理をしたりしている。日常生活の中でも、利用者一人ひとりに役割を持って頂き、家事等のお手伝いをしてもらい、日々の張り合いや喜びが得られるように支援している。本人の好みの飲食物を提供したり、塗り絵や音楽鑑賞など、一日の楽しみがもてるように支援している。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策の為、外出の機会は少ないが、ウッドデッキ等で日光浴はしている。季節に応じて近隣へドライブや花見に行ったり、周辺の散歩などの支援に努めている。ドライブ・散歩し気分転換できるようにしている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、施設側で管理しているが、必要な時に物品を購入し本人に提供している。買物の機会があまりないが、必要な物は口頭で伝えてもらったりメモを書いてもらい購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会を通して家族とお話ができるようにしている。電話を取り次いだり携帯電話にて連絡可能な利用者には、家族からの電話を受けられるように対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて模様替えや、飾り付けを行ったり、雰囲気だけでも楽しんでもらえるように配慮している。関係性を考慮し、その時々に応じた居場所作りに努めている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を把握して、座席などの配置を検討している。また独りになれる時間がつくれるように配慮して、本人のペースを大切にしながら支援を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや思い出のある物を自室に置き大切にされている。他に自宅で使用されていたタンスやテーブルなど設置されて過ごされたり、家族の写真を飾られたりされている。配置場所を考慮し、動線を確保して転倒予防に努めている。		

自己	外部	項目（こもれび）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように表札を立てて自分で行けるようにしている。また、居室の扉付近に表札を貼り、自分の居室が解るようにしている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム陶ヶ岳

作成日

令和6年1月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について、具体的な達成度を評価できていない。	指針の達成度を定期的に検証できる仕組み作りを行う。	①指針の評価を定期的に行う日程を設定する。 ②評価者の設定（職員・入居者・家族等）をし、評価方法・基準を設定する。	6ヶ月
2	5	運営推進会議が多様な意見交換の場となっていない。	意見交換の促進を強化できる会議の内容の構築を行う。	①参加者が自由に意見を述べやすい環境（雰囲気作り等）を検討する。 ②会議のテーマについての検討（話しやすい内容・事前にテーマを決める等）をする。	6ヶ月
3	36	災害対策において、地域との協力体制が十分に構築されていない。	地域との災害時の情報共有や協力体制の構築を行う。	①災害時においても円滑に情報の共有・伝達ができる手段を整備する。 ②地域全体で災害対策を共有し、地域と連携できる手順を確立する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。